

第2回 せとうちART研究会

P-15

香川,2019.09.01

ART(生殖補助医療)とART(技・芸術)がつながる生殖医療の場
～統合医療の実践と意義～

○田中久美子(タナカ クミコ)、友崎薫(トモザキ カオル)、阿江大樹(アエ ダイキ)、馬場綾美(ババ アヤミ)、重舛知佳(シゲマス チカ)、室谷有紀(ムロタニ ユキ)、姫野隆雄(ヒメノ タカオ)、森本義晴(モリモト ヨシハル)

HORAC グランフロント大阪クリニック

- I. 【はじめに】 当院では、最先端のART（生殖補助医療）を実施していくなかで、さらにその効果を高めていくために、統合医療も活用できるシステムがある。統合医療は、患者のライフスタイルや生活習慣を見直し、妊娠しやすい身体に体質改善していくことを目的としている。不妊治療にはストレスがつきものであり、人の深部に作用する、ART（統合医療の技術）の提供は重要である。今回は、統合医療の現状と実践、およびその意義について報告する。
- II. 【対象】 2015年開院から2018年12月までに、統合医療を受けた患者（施術、運動療法、カウンセリング）を調査した。
- III. 【結果】 当院における統合医療の提供メニューは、大きく3つに分類される。運動系、施術系、カウンセリング系のプログラムがあり、胚質改善・着床改善・血流改善など妊娠体質になることを目的としている。患者の活用が多いのはどの年度においても共通して、施術系（受胎鍼・低出力レーザー、受胎リフレクソロジー、ファータイルアロマセラピー）であり、初年度のべ1296人、2016年度2606人、2017年度2989人と2018年度2847人の利用者があった。運動系は、ミトコンウォーク、ストレッチ、ヨガと3つのプログラムを提供し

ており、施術系同様、初年度のべ 559 人、2016 年度 1403 人、2017 年度 1902 人、2018 年度 1785 人と利用者は多い。カウンセリング系は、統合医療コーディネート、栄養療法、心理療法、遺伝カウンセリングを提供しており、初年度のべ 984 人、2016 年度 1744 人、2017 年度 1702 人、2018 年度 1020 人の活用があった。患者アンケート結果からは習慣（運動や食生活）、体調（血流、冷え、睡眠、便秘）、心理面（夫婦関係、気分の安定）の変化を体験していることが示唆された。

IV. 【考察】不妊の問題はいまや社会問題である。家族、友人、職場や社会といった場で、ストレスを抱え、治療を継続している患者にとって、医療スタッフのみならず、専門性の異なった技を享受できることは、それ自体が大きな holding enviroment (抱える環境) である。アプローチの仕方が異なる統合医療スタッフが複合的に統合医療メニューを提供できることは治療中の患者にとって大きな意義があると考えられる。